

1. 澤柳記念 DEI 賞受賞のご報告

この度、AEGIS-Womenが第12回澤柳記念DEI賞「A賞」を受賞しましたので、ご報告いたします。この賞は、東北大学の初代総長であった澤柳政太郎氏にちなみ、東北大学内外に関わらずジェンダー公正性の推進を含んだダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン（DEI）推進を目指す取り組みに多大な貢献をした個人またはグループを顕彰する賞です。

授賞式は2025年9月2日に東北大学で行われました。会を代表して、河野恵美子会長が出席しました。



（澤柳記念 DEI 賞 <https://www.bureau.tohoku.ac.jp/danijo/sawayanagi/sawayanagi.html>）

会長のご挨拶

消化器外科女性医師の活躍を応援する会（AEGIS-Women）会長
大阪医科薬科大学 一般・消化器外科 河野 恵美子

皆様のご支援に支えられ、この度「消化器外科女性医師の活躍を応援する会（AEGIS-Women）」は、栄誉ある澤柳記念DEI賞（A賞）を受賞することができました。いただいた評価は、活動の成果にとどまらず、会則やシンボルに込めた私たちの理念と願いにまで及んでおり、深い感慨を覚えています。ここに至るまで会を支えてくださった会員の皆様、そして応援してくださった全ての方に心より感謝申し上げます。

消化器外科医数は減少の一途をたどっています。一方で、消化器外科医の女性医師の割合は着実に増加しており、もはや消化器外科領域は女性医師の力なくして成り立ちません。当会は2015年の設立以来、性別や世代、施設の垣根を越えて支え合い学び合う場を築き、全ての外科医がそれぞれの能力を最大限発揮できる社会を目指して活動してまいりました。本年11月、当会は設立10周年を迎えます。この節目を新たな出発点とし、次の10年への挑戦を仲間と共に重ね、持続可能な外科医療の実現に貢献してまいります。引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

講評（選考委員会より）

「消化器外科女性医師の活躍を応援する会」は、女性医師・研修医・医学生の消化器外科領域への参画を促進し、女性外科医のキャリア継続と活躍の場を広げることを目的に2015年に発足しました。代表の河野氏は、過去5年間の114万件もの外科手術を分析し、男女の外科医が執刀する手術内容に明らかな性差が存在することを示し、国際的学術誌に発表しました(Kono E, et al. JAMA Surg.)。この研究は女性外科医の処遇格差を可視化し、「函館宣言」(<https://www.jsgr.or.jp/diversity/about/declaration.html>)の発出につながるなど、医学界全体に大きな影響を与えました。また会則には「すべての女性外科医がライフイベントを克服し、自ら望むキャリアを達成できるように支援する」と明記され、ロゴや会名の由来からも、次世代にバトンを渡す強い使命感と情熱がうかがえます。さらに男性医師を巻き込み、全国規模で技術力・研究力を高める活動を展開するなど、社会的インパクトと将来性、継続性を備えた取り組みである点も高く評価されました。よって本活動は、澤柳記念 DEI 賞にふさわしいものと認められます。



2. AEGIS-Women ニュースレターチームの活動について

東邦大学医療センター佐倉病院 外科 松永理絵



AEGIS-Women では、本会が行うイベントをニュースレターとしてまとめ、会員や一般の方向けに発信しています。現在、ニュースレターチームは、副会長の大越香江先生（日本バプテスト病院）、本藤奈緒先生（信州大学医学部附属病院）、向山順子先生（東京大学医科学研究所）と松永の4人を中心に活動しています。日本外科学会や日本消化器外科学会開催時に行われ

るセミナーの講演内容の紹介や、AEGIS-Women の総会、手術手技セミナーなどの報告や参加された先生方の感想などを掲載してニュースレターを作成し、本会のホームページで公開します。自分の専門分野以外の講演内容をまとめる時は難渋したり、学会が続くシーズンはイベントが多くニュースレター作成が慌ただしくなったりすることもあります。仲間の先生方と協力しながら進めています。このニュースレターには本会の活動の記録という意味合いもあります。私自身がニュースレター作成に関わり始めて約5年になりますが、これまでのニュースレターを振り返ると、本会の活動が着実に広がり、賛同、協力してくださる方々が増えてきたことを改めて強く感じます。

先日、本会で知り合った女性医師と話す機会がありました。「生まれ変わったら何になりたいか」という話が出ましたが、「結局、外科医になると思う」という意見で一致し笑い合いました。手術、研究、育児など自分がやりたいことに対して常に時間とエネルギーが不足しがちな中、ままならないことや悔しいことがあっても、やはり外科医としての仕事に魅力を感じ、その思いを共有できる仲間がいることを力強く思います。

外科医を目指したい方、外科医を続けたい方、外科医に復帰したい方など多くの方々に、本会の活動を通じて、助け合い、時に慰め合い、励まし合える仲間がいることを伝えていきたいと願います。自分の得意な文章を書くことを活かしながら、本会の活動に貢献できることを嬉しく思います。

3. AEGIS が守ってきたもの—会の理念を発信し続ける

日本バプテスト病院 外科

京都大学大学院 人間・環境学研究科 大越香江



AEGIS-Women（消化器外科女性医師の活躍を応援する会）の設立時、会の名称に込めた願いが思い出されます。

「Association for Empowerment of Women Gastrointestinal Surgeons (AEGIS-Women)」という名前は、英語ネイティブの友人と共に、世界に通用する願いを込めて名付けたものです。ギリシャ神話の女神アテナが持つ最強の防具 AEGIS の名をこの会に冠した自分を、今では誇らしく思っております。

当時は、この AEGIS-Women という名がこれほど広く知られるようになるとは想像もしていませんでした。それどころか、このような会に対する反発があるのではという悲壮な覚悟すら漂っていたほどです。

「名は体を表す」と申しますが、まさに言葉には精神が宿ると信じております。会の名称はもちろんのこと、ニュースレターにしても、論文や学会発表にしても、その過程におけるひとつひとつの言葉選びを常に大切にしていまいりました。会の様々な取り組みやイベントを丁寧に記録し、文字に起こしていく作業は多大な労力を要しますが、この地道な記録こそが私たちの活動の証となり、会の評価を高める礎となっていることも事実です。

実際に、第18回 平塚らいてう賞 特別賞の受賞式では、選評においてこのニュースレターを通じた継続的な情報発信を高く評価いただきました。そして、内閣府「女性のチャレンジ支援賞」に続き、このたび第12回澤柳記念 DEI 賞「A 賞」という栄誉ある賞を賜りましたのも、皆様のご支援と、こうした発信活動の積み重ねの結果でもあると考えております。

これらの受賞を大きな励みとし、AEGIS-Women のさらなる発展と、消化器外科領域における女性のプレゼンス向上を目指して、引き続き発信を続けてまいります。今後とも、皆様のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

編集：松永理絵、大越香江